

松井小児科

2022 年度インフルエンザワクチン接種予約受付のお知らせ

予約受付期間

予約はインターネットのみで、電話ならびに窓口での予約は行いません。高齢者で当院定期通院中の方のみ窓口で予約できます。10月1日(土)13時から予約を開始します。診察券番号をお持ちでないご家族(兄弟や保護者)の方はお子さんの接種当日診察券をお作りしますので、医院へのお知らせ欄に接種希望について(氏名(漢字とふりがな)/生年月日)ご記入ください。なお当院の診察券番号がないお子さんの新規受付は予定しておりません。

接種期間

10月12日(水)から

接種時間帯

	月	火	水	木	金	土
午前診前		8:45-9:00	8:45-9:00	8:45-9:00		8:45-9:00
診察時間外			12:00-12:30			13:00-15:00
午後診内	16:30-17:00	16:30-17:00	16:30-17:00		16:30-17:00	
	18:30-19:00	18:30-19:00	18:30-19:00		18:30-19:00	

接種対象

ワクチンの効果と副反応の可能性を考え、原則1歳以上の方の接種とさせていただきます。**ただし生後6か月以上の方です。すでに保育園に通園中の方は接種対象とします。**卵アレルギーのある方は接種要注意者に該当しますので、インフルエンザにかかった場合のリスクとワクチン接種とのバランスを考慮し接種を行うかどうか判断します。

接種回数

13歳未満の方は2回接種、13歳以上の方は1回接種です。**2回接種対象の方は1回目接種から2週間から4週間の間隔で必ず2回目の予約をお取りください。**体調不良等で1回目をキャンセルする場合は、もう一度最初から予約の取り直しになります。2回目が体調不良で延期する場合は、受診時窓口で予約を変更させていただきます。電話での予約変更はできません。

費用

13歳未満 3000円×2回、13歳以上 3500円です。高齢者の方(65才以上)は生駒市からの補助があり一部負担金は2000円です。

接種当日の待ち時間短縮のため、接種日までに問診票を取りに来ていただくか、ホームページからダウンロードしていただき、問診票にご記入の上ご持参ください。お子様は必ず母子手帳をご持参ください。**母子手帳をお忘れになると接種はできませんのでご注意ください。**

接種当日の注意

- ①診察時間内は一般診察と並行しての接種となりますので、ご予約があってもお待たせすることが多くなります。待合室で診察の方と一緒にとなりますので、ご了承の上時間に余裕をもって予約時間にご来院ください。接種の際にお子様が悪がたりした場合は順番を後にさせていただき、当日の接種をお断りする場合があります。
- ②予防接種専用時間帯は薬の処方や体調不良等の診察はできません。熱が 37.5℃以上や体調不良の場合は診察に来て予約変更をしてください。連絡なく来院されなかった場合はキャンセルされたものとして扱わせていただきます。
- ③接種当日は激しい運動を避けてください。お風呂は差支えありませんが、接種部位を強くこすらないようにお願いします。

Q&A

「Q1. 接種したほうがいいですか？」

接種したから絶対に感染しないとはいえません。接種しなくても大丈夫ともいえません。効果、副反応、費用などを考慮して決めてください。新型コロナウイルスワクチンが接種できない年齢の方(特に乳幼児)は接種が望ましいと思います。

「Q2. 接種したら感染しませんか？副反応はありませんか？」

感染することもあります。他のワクチンに比べると効果は低いです。(有効率 50%程度) 重い副反応は極めて少ないですが、発熱、倦怠感、接種部位の発赤/はれ/痛み/かゆみなどはよくあります。自然に軽快します。

「Q3. 乳児でも接種していいですか？」

現在日本で使用されているインフルエンザワクチンはスプリットワクチンでインフルエンザにかかったことがない人には効果はないとされています。したがって、インフルエンザにかかったことがない乳児や幼児では効果が期待できません。 当院ではインフルエンザにかかったことがない乳幼児にはインフルエンザワクチン接種を積極的には勧めていません。しかし 6 か月から接種は可能ですので、効果があまり期待できないことを承知していただければ、希望で接種はいたします。

「Q4. 何月に接種すればいいですか？あまり早く接種すると抗体が持たないのでは？」

流行前に 2 回接種が終わるように、1 回目は 10 月-11 月、2 回目は 12 月上旬までに接種しましょう。抗体は 2 回目接種から 10 日-14 日で上昇し、5 か月間は有効な力価が維持されるとされています。

「Q5. 毎年インフルエンザワクチンを接種しないといけませんか？」

インフルエンザワクチンは流行が予想されるワクチン株で作られます。前シーズン接種していても予防効果は期待できませんので、原則毎年接種しましょう。

「Q6. インフルエンザワクチンの有効性はどうでしょうか？」

現在日本国内で用いられている不活化ワクチンは感染を完全に阻止する効果はありませんが、インフルエンザ発症を予防することや、発症後の重症化や死亡を予防することに一定の効果があるとされています。しかし乳幼児をインフルエンザウイルス感染から守るためにはワクチン接種にくわえてご家族や周囲の大人たちが手洗いや咳エチケットを徹底することや、流行時期には人が多く集まる場所には行かないようにするなど、ウイルスに暴露されることをできるだけ抑制する工夫も大切です。